

国語科学習指導案

授業者：6年1組 小原 圭子
2組 山木戸 亮介

- 1 学年・組 6年1組（29名） 6年2組（30名）
- 2 単元名 「宮沢賢治」をリサーチしよう 「イーハトーヴの夢」「やまなし」
- 3 単元について

○ 本単元では、学習指導要領「C読むこと」(エ)「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」と(オ)「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」と(カ)「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」をねらいとしている。教材文として掲載されている「やまなし」「イーハトーヴの夢」を読み進めながら、数多くの宮沢賢治作品に関心を持たせるよう「宮沢賢治をリサーチしよう」という言語活動を設定した。

教材文「やまなし」は、「二枚の青い幻灯」として写し出された「五月」「十二月」の二つの場面から構成されており、小さな谷川の底に住んでいるかへの目を通して語られる世界感が描かれた物語文である。本教材には、擬声語・擬態語、造語、色彩表現、比喩など、賢治独自の言葉の響きの美しさ、不思議さなど、魅力があふれている。また、資料として添えられている「イーハトーヴの夢」では、賢治の生きざまが詳しく描かれている。そこから賢治の信念や理想、目的をもって強く生き抜いた人生を知り、賢治の作品と重ねて読むことができる教材である。

○ 児童は、1学期に「カレーライス」「ようこそ、私たちの町へ」等の教材で、グループに分かれて心情を読む活動や、インタビューをもとに必要な情報を選択しまとめる活動を経験してきた。その中で、叙述に即して一文にこだわって読み深めることやグループで協力し合って学習を進めることの大切さを学んできた。

「カレーライス」の学習後、毎時間の振り返りのノートを分析し、中心人物と重要人物の心情の揺れを読むことができているか、表現に着目して読み進め、自分の考えと合わせてまとめることができているか、結果をまとめた。

内 容	B 基準以上 達成 (%)	達成 できて いない (%)
①「ぼく」の心情はどのように揺れ動いたか、読む力	83	17
②「お父さん」の心情を捉え、お父さん立場になって物語を書きかえる力（お父さんの心情を読む力）	68	32
③ お互いの心情を交流し、感想をまとめる力	72	28

どちらかの立場に限定し読み進めたが、「ひろし」立場で読み進めた児童は、自分達の経験と重なるため理解しやすく、①上記のような高い結果につながった。一方「お父さん」立場での心情理解については、お父さんを一人称として文章を書き換えさせたため難しく、②上記のような低い結果になった。③互いの読みを交流する場面では、まとめがグループによって様々で、報告だけに終わってしまう班もあり、上記の結果に終わった。

また、児童同士が教え合い、学び合う協働的な授業形態についてどのように感じているか、学習リーダーを立てて授業を進めることと、グループに分かれて学習していくことについて、アンケートを実施し、結果をまとめた。

内 容	肯定的評価 (%)	否定的評価 (%)
① 学習リーダーになり、積極的に授業に参加すれば、勉強がよく分かると思います。	75	25
② グループに分かれて、それぞれの課題で話し合い、交流すれば、文章に書かれている内容がよく分かります。	86	14

以上のアンケート結果から、協働的な授業をめざして高学年で行っている「学習リーダー」や「話し合いの型」を基にした4人班での活動等が児童自身の意識の中で「自分に国語科の文章を読んだり、話し合ったりする力が付いてきている。」という実感へつながっていると考える。

児童実態からみる課題

【課題となる力】

- 文章表現に着目し、既習事項を想起しながら自分の考えをまとめる力。

【指導上の課題】

- 叙述を書き抜くことはできるが叙述をもとに自分との関連を考えさせる指導が不十分であった。

- 指導にあたっては、「宮沢賢治は『やまなし』を通して何を伝えたかったのか」という大きな課題解決に向けて学習を進める。

この課題解決に向けて、0次では数多く出版されている宮沢賢治作品を児童がすぐに手にとって読むことができる環境を作り、朝読書で多読させる。第一次では、教材文を読んで、大まかな内容をつかませ、この単元でのつきたい力を確認させる。疑問や不思議等を出させたものから、学習計画を立てる中で、単元のゴールである活動を児童に決定させる。そして「イーハトーヴの夢」から、賢治の一生や、苦しい中にも楽しさを見つけ、未来に希望を持とうとした考え方、一生を人のために尽くそうとした生き方等を年表にまとめさせる。第二次では、第一次で出た疑問を叙述と賢治の生き方をまとめた年表をもとに実際の作品について、年表とつないで読み進めていく。その後教材文に戻り『やまなし』で伝えたかったこと」という大きな課題解決に向かわせたい。その学習形態として、児童同士の学び合いの場をベースにした「ジグソーグループ」と「課題解決グループ」の2つのグループに所属し、それぞれの友達と交流しながら課題解決をしていくという形をとらせる。このような学習形態を行うことにより児童は、自分の学びを元のグループに戻って伝えなければならないという責任が生じる。そのことで協働的な学び合いの目的が明確になると考え、このような学習形態をとった。第三次では、「やまなし」の読みを並行読書した他の作品と併せて『「宮沢賢治」のリサーチ本』にまとめ、小中一貫で交流している中学生に見てもらおうよう、感想をまとめて準備を進めさせる。

協働的な学び合いを充実するための授業づくりの工夫として、グループ学習を国語科リーダーにより進行させる。クラスの全員が積極的に授業に参加し、学び合いをすることで、自分の読みをより確かなものにできると考える。

指導改善ポイント

- 自分の読みを5月、12月のどちらかに限定し、課題別で読ませることで谷川の底の情景描写にこだわった読みをさせる。
- 一人読みの仕方を理解させ、家庭学習でノートに書かせてくることで、宿題と授業がつながり、主体的な学びができるようにさせる。
- 児童同士の協働的な学び合いの場をベースにした学習形態を展開し「豊かな読みの力」の向上につなぐようにさせる。

【指導の工夫】

- 登場人物の様子や会話、賢治独自の表現方法から人物の様子を想像させたり、揺れ動く心情をつかませたりする。また、二つの場面の景色の見方の違いを考えさせ、題名につないでいく。
- 学び合いをすることで教師との一問一答に陥ることなく、児童が積極的に授業に参加することができる。

【城北中学校区共通の授業改善の視点】

- ・ J（じっくり考える）… 家庭学習で一人読みした内容を友達と交流することで深めさせる。
- ・ H（はっきり表現する）… 自分の考えをグループの友達に分かりやすく話をさせる。
- ・ K（繰り返し粘り強く挑戦する）… リサーチ本完成に向けて、最後まで丁寧に取り組ませる。

4 単元の目標・つきたい力

単元の目標

- 「やまなし」の独特な表現を味わいながら読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- ◎ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。
(読むこと エ)
- 本や文章を読んで考えたことをリサーチ本にまとめ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読むこと オ)
- 目的に応じて本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することができる。
(読むこと カ)
- 物語の構成や表現上の特色について、自分の気づきを話すことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(キ)(ケ))

つきたい力

- ◎ 宮沢賢治の生き方や考え方や作品を関連させて読む力。
- 宮沢賢治を研究することを通して、宮沢賢治が作品を通して伝えたかったことを自分なりに考え交流することを通して、自らの考えを深める力。
- ㊦・すぐれた表現を味わいながら読み、自分なりの思いや考えをもつ力。
・作者の考えや伝えたいことをリサーチ本に表現し、読む人に伝える力。

中学校第1学年へのつながり

中学校第1学年 学習指導要領

〔C 読むこと〕

- ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。
- エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。
- オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

5 単元の観点別評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「宮沢賢治を研究する言語活動」を通じた指導 〔具体的な言語活動：「宮沢賢治」をリサーチしよう〕		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の情景や言葉の使い方に興味をもったり、作者の考え方や生き方を知ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 場面についての描写を捉えて、優れた叙述について自分の考えをまとめている。(エ) ○ 複数の本や文章を比べて読み、作者のものの見方や考え方について自分の考えを深めている。(オ) ○ 二つの場面を比べたり、資料を読んだりすることで、作品の特徴や作者の思いを捉えている。(カ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物語の構成について意識をもっている。(イ(キ)) ○ 比喩などの表現上の特色について気づいている。 (イ(ケ))

6 指導と評価の計画

(全14時間 本時☆印)

次	学習内容(時数) ○ 発問	評価			
		関	読	言	評価規準(評価方法)
一	・「やまなし」の範読を聞いて、不思議や疑問点を出し合う。(1/14)	○		◎	・おおまかな内容をつかみ、不思議に感じたことや疑問点を書いている。(ノート) ・物語の構成について、意識を持ち、比喩などの表現上の特色について気付いている。(ノート)
	・「イーハトーヴの夢」を読んで、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。(2/14) ○宮沢賢治の一生を年表にまとめましょう。	◎			・宮沢賢治の生き方や考え方のもとになった出来事を年表にまとめている。(行動観察・リサーチ本)
	・「イーハトーヴの夢」を読んで、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。(3/14) ○宮沢賢治はどんな生き方考え方をしていたでしょう。		◎		・宮沢賢治の言葉、理想、行動などから、自然との共生を理想としていた宮沢賢治の考え方をまとめている。(行動観察・リサーチ本)
	・ゴールを確認し、学習計画を立てる。(4/14)	◎			・最終ゴールに向けて、つけたい力が分かり見通しをもっている。(リサーチ本)
二	・「雪わたり」と「よだかの星」に分かれて、それぞれの作品に流れている世界観をつかむ。(5/14)	◎			・授業の流れや話し合いの方法をつかんでいる。(行動観察)
	・つかんだ世界観の交流をする。(6/14)		◎		・2作品に流れている主題を班で交流しまとめている。(行動観察・リサーチ本)
	・やまなし「五月」「十二月」に分かれて描かれている情景を読む。(7/14) ○「やまなし」の世界と宮沢賢治の生き方や考え方に通じるところを交流しましょう。		◎	○	・場面ごとに、宮沢賢治の生き方や考え方と通じるところを読み深めている。(行動観察・リサーチ本) ・擬態語や擬声語、比喩表現などに着目し、役割や効果に気付いている。(行動観察・リサーチ本)
	・「五月」「十二月」に分かれて描かれている情景を読む。(8/14) ○「やまなし」の世界と宮沢賢治の生き方や考え方に通じるところを交流しましょう。		◎		・場面ごとに、宮沢賢治の生き方や考え方と通じるところを読み深め、班に振り返り交流している。(行動観察・リサーチ本)
	・グループでの読みを交流する。 ○それぞれの月のイメージを交流して賢治がやまなしにこだわった理由を考えましょう。(9/14)		◎		・読み深めたことから共通点や相違点を見つけ、かのにの兄弟の変容を交流している。(行動観察)
・題名について考える。 ○宮沢賢治はなぜこの作品に「やまなし」という題名を付けたのでしょうか。(10/14)		◎		・読み深めた「やまなし」の内容から、なぜ題名は「やまなし」なのか自分なりの考えを持ち、理由を書いている。(行動観察・リサーチ本)	
三	・「やまなし」と他作品を読み比べ、リサーチ本を完成させる。(11/14) ○「やまなし」と通じるところ、異なるところはどこでしょう。		◎		・宮沢賢治の他作品と「やまなし」を比較しながら読み、共通点や相違点を見つけている。(リサーチ本)
	・「やまなし」と他作品を読み比べる。(12/14)	◎			・宮沢賢治は何を伝えたかったのか、自分なりに考え交流している。(行動観察)
	・既習作品を読み直し、作者が読者に伝えたかったことをまとめる。(13/14)	◎			・作者の伝えたかったことをまとめ、リサーチ本を完成させている。(リサーチ本)
	・学習を振り返ってまとめる。(14/14)		◎		・単元の学習を通してついた力を具体的に振り返っている。(ノート)

7 本時の学習

(1) 本時の目標 (第9時/全14時間)

「やまなし」の5月、12月の世界を読み深め、賢治が12月にしか表れていない「やまなし」を題名にした理由を考える。

(2) 授業の視点

宮沢賢治作品は、児童にとって難解な文章なので5月・12月の世界のどちらかに焦点を当て、集中して一人読みをさせる。それぞれの読みをグループで交流することにより、5月12月両方に流れている世界観をつかませたい。6年生2クラスを5月12月のジグソーグループに分け、2T2C(二人の先生がクラスを解体して指導する。)の課題別授業形態をとり、話し合いを深めさせる。

(3) 本時の学習展開

	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	観点 評価 評価方法	
課題の提示(5)	1 単元のゴールを確認し前時までの振り返りをする。 ジグソーグループ	<ul style="list-style-type: none"> 賢治リサーチ本完成に向けた学習の進捗状況を確認することで本時の学習に対する意欲を高めさせる。 どちらかの月を丁寧に一人読みさせ、グループで交流させることで、賢治の世界観をつかませる。 		
	2 本時のめあてを確認する。 表現に着目して、5月、12月、それぞれの景色を読み、イメージをまとめる。			
	3 自分の振り返りの視点を設定する。 例 A 5月の水や光の様子に付いて自分の考えを発表する。12月の世界を読み自分のイメージを友達に伝える。			
	5月課題別グループ	12月課題別グループ		
	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援	学習活動 ◎発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意事項 ☆つまずきへの支援
課題の解決(15)	4 5月を音読する。 5 5月を読んで、感じたことや考えたことを課題別グループでまとめる。 ・ 景色は明るい、死んだよ、殺されたよという言葉が繰り返して出てくる。 ・ 自分達も鳥に食べられてしまうのかもしれないと思った。 ・ クラムボンというのはかのにの兄弟から見て谷川にいる小さい生き物だと思う。 ・ 賢治の年表を見ると、イーハトーヴは理想だったから、かのにの兄弟が話し合っているような話を書いたのだと思う。 ・ 賢治は自然を大切にしていたので、自然界のことを書いたのだと思う。	K(くりかえし挑戦する)…豊かに音読できるように繰り返し練習させる。 ・ 司会と書記を中心に話し合わせる。 ・ 5月の色は暖かく絵を見るとききらきらしているが、死という言葉やかわけみが出てくるので不気味な感じがすることなどを交流させる。 H(はっきり表現する)…5月のイメージを叙述を根拠に、グループ内で話し合わせる。 ☆ 賢治の世界観に迫らせるように、年表を意識させる。 ・ 賢治の考え方をつかませる。	4 12月を音読する。 5 12月を読んで、感じたことや考えたことを課題別グループでまとめる。 ・ かのにの兄弟の会話を読むと、弟のかにが兄のかににおいつこうとしていることが分かる。 ・ ぼかぼかやもかかなどから暖かい感じがした。 ・ 12月は水晶や金雲母といった堅い感じがするけれど、お酒に最後になっているから、うれしそうな気がした。 ・ 賢治の年表を見ると、子どもの頃一人遊びで石集めや石を観察していたと書いてあったので、水晶のつぶとか金雲母のかけらなどが話に出てきたのだと思う。	K(くりかえし挑戦する)…豊かに音読できるように繰り返し練習させる。 ・ 司会と書記を中心に話し合わせる。 ・ 叙述をもとに、かのにの子どもらの成長が分かる所を交流させる。 ・ 擬態語や擬声語に着目させ、その音から受ける感じを考えさせる。 H(はっきり表現する)…12月のイメージを叙述を根拠にさせて、グループ内で話し合わせる。 ☆ 賢治の年表を振り返らせ、子どもの頃好きだった遊びと関連付けて考えさせる。 ・ 「イーハトーヴの夢」を振り返らせる。
	まとめ・振り返り(25) 6 クラスの班に戻り自分達の読みを伝える。 ジグソーグループ ◎ 5月と12月のイメージを伝え、賢治がなぜ「やまなし」の題名にしたのか理由を考えましょう。 ・ 5月は色は明るいけれど死という言葉が出て、かわせみという敵もいるので怖い感じがした。 ・ 12月は、最後に題になっている「やまなし」が出てくる。未来につながる感じがした。 7 本時のまとめ・振り返りを書く。 5月と12月を比べると、5月は暖かい景色だけど怖い感じ、12月は冷たい景色だけど暖かい感じがし、未来につながるようだった。だから、賢治は題名を未来の豊かさにつながる「やまなし」にしたと思った。 グループの交流で友達の意見に対して自分の意見が言えた。そして、自分の班に帰って、話し合いの内容を伝えることができ、題名の意味について考えることができた。	・ それぞれ分かれて読んだ内容を自分のクラスの班に伝え、5月と12月でのかのにの兄弟の変容をつかませる。 J(じっくり考える)…グループ内にそれぞれの読みを確実に伝え、賢治の伝えたかった世界を考えさせる。	【読む能力】 5月、12月それぞれの読みを班のメンバーに伝え、賢治の世界観に迫って読みをしている。 (話し合い、ノート)	
	8 次時の予告を聞く。	・ 賢治が「やまなし」にこだわった理由をジグソーグループで討論させることを伝える。		

